

R7 とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	家庭的保育室てくてく
----	------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

異文化に触れる

<テーマの設定理由>

保育室の活動としてネイティブの講師を招き英語遊びを行っている。こどもたちは、英語をたくさん浴びる中で、おなじ物の単語でも日本語と違う呼び方があることに興味を持ち、新しい言葉をきっかけに世界を知りたいという関心を育てている。

2. 活動スケジュール

4~8月（月2回）、9~3月（月4回）

・英語講師による英語遊び。歌遊び・カード遊びにより挨拶、天気、色、数、食べ物、生き物、季節、感情、アルファベットに触れ日本語とは違う言葉があり、日本人とは違う肌の色の人が存在することを知り、抵抗なく触れ合う。

12月

- ・世界の料理に触れ普段食べているものがどこの国から来たのか聞き楽しく食べる。（インターナショナルランチbuffet）
- ・英会話スクールに遊びに行き、アメリカ人の子どもたちと同じ空間で過ごす。

3月

・映像教材を上映し、いろいろな国の子どもたちがそれぞれの国の言葉で挨拶するのを見て興味を示す。

3. 活動のための環境設定、準備する素材や道具

（活動する場所・環境の工夫）

- ・保育室、英会話スクール
- ・室内にいろいろな形や色を飾り、耳にした色や形を子どもたち自らが探し出せるようにしておいた。
- ・大きな窓サッシで、直ぐに天気や外の様子が確認できる環境にあった。

（活動に用意した素材・道具）

- ・スピーカー
- ・スクリーン
- ・プロジェクター
- ・iPad
- ・各種カード
- ・カラーボール
- ・各国の国旗
- ・各国の料理

(同テーマで複数の活動を分けて記載したい場合は、以下のページをコピーして対応ください)

4. 探究活動の実践

<活動の内容> ※公開可能な写真 2 枚以上を含めてください

(保育者⇒子どもへの最初の働きかけ、狙いの問い)

- ・日常より英語の曲を流し、音の出る英語の絵本を自由に取り出せる所に置いた。
「これはなんて書いてある?」「apple の絵はどれだろう?」
- ・ネイティブスピーカーの英語講師を招き、カードやカラーボールなど視覚的なアイテムをきっかけにしながら、たくさんのネイティブの発音を浴びた。
- ・世界の文化を体験したり、参加したり、映像で見たりする中で、「日本と世界はどう違う?似てるところはある?」という問いを楽しく実感してもらった。

(活動の内容、流れ。問いに対する探究・反応)

- ・年間活動として、月 2～4 回、英語講師を招いて一緒に遊びながらネイティブの英語を浴びる活動を行った。カラーボールや絵カード等のアイテムを使いながら目と耳の両方で興味を誘った。
- ・カラーボールを使った活動では、様々な色のカラーボールとカゴが出てきて子どもがボールをかごに入れるのに合わせて講師が英語でカウントし始めた。すると子どもはそのリズムに合わせて入れるようになった。子ども達がカラーボールの同色を集め始めると、カゴに入れるときに英語でその色を伝えた。「red」「blue」など色を伝えながらカラーボールを見せ、室内の同じ色を指してみると、子どもたちもボールと同じ色のものを探し出した。
- ・絵カードを使った活動では、出てくるイラストや英語を見たり聞いたりしながら、カードを並べたり言葉を真似したり様々な反応が見られた。秋に関する絵カードの時にはリスのカードを見た子どもがどんぐりカードを持ってきた。「yammy」「yammy」と食べる真似をすると「yammy」が美味しいということに気づいた。冬の絵カードが出てくると上から帽子、マフラー、ジャンパー、手袋、ズボン、ブーツの順に着ているように並べ始めた。パズル遊びのように楽しみながら英語での言い方を知っていった。丸や資格など形のカードを見ながら英語では何というか言ってみると、2 歳児が自ら同じ形を探し出し「circle あった」と室内の形探しが始まった。
- ・絵カードにアルファベットカードも加わり、天気・色・数・食べ物・生き物の名・季節・顔・体の部位・感情など投げかけた。体の部位のカードで、鼻のカードを見ると子ども自身が自分の鼻に触れ、言葉とカードと自分を結び付けて感じていた。英語での表現に触れる機会が多くなることで日本語とは違う呼び方の言葉を知っていった。

- ・英語に慣れてきたころから、さらに広く世界を感じる活動にも挑戦した。
- ・12月には世界の料理を体験するインターナショナルランチbuffetの活動を行った。料理にカラフルな国旗を添えることで子どもたちの気分を盛り上げながら行った。普段子どもたちの好きな食べ物を選び、それぞれがどこの国が発祥の食べ物なのかを調べその旨伝えてみたが、普段食べ慣れているものということもあり異国の料理であるということ子どもたちの理解を得ることは難しかったが、いろいろな料理を見て選び味わうことで食を楽しむことができた。
- ・同じく12月、近くの英会話スクールに遊びに行き、講師以外の外国籍の子ども達に混ざって活動することも行った。曲に合わせて体を動かすことがメインの活動だったが、普段保育室で行っても身振り手振りが少なく、曲の内容に合わせての活動への関心もあまり見られなかった。スクールの子どもたちと一緒に楽しみ積極的に触れ合うところまで踏み込めず、今後の検討課題と感じた。
- ・3月には世界の子ども達それぞれの言葉で挨拶をする動画の上映を行った。子どもたちは映像を観ることに夢中になり座り込んで釘付けになっていた。表現はなくとも観ること、聴くことで広い世界のイメージが浸透していると捉えた。
- ・英語を中心としたさまざまな活動を通して、子ども達の身近なところに日本と違う世界があふれていることを感じてもらった。講師のいない日常でも、朝の会での天気調べに「今日の天気は何？」という英語の歌を歌うことで天気(sunny・rainy etc....)を表現するようになったり、散歩中に民家にとまっている車の色(red・blue etc...)や木になっている実の色(orange)を子ども自ら英語で発したりする様子が見られるようになった。
- ・音の出る絵本で「baby shark」の曲が好きでよく鳴らしているので「baby shark」「five little fish」の曲を使い、お別れ会での表現遊びにもつながった。



(「場所・環境」「素材・道具」「活動内容」への、こども同士の反応)

- ・理解の深い2歳児と雰囲気を感じ取る0・1歳児が共存することで英語を受け入れる空気感が作られ、英語を自然に受け入れることができた。
- ・講師の出すものに興味を示し、それぞれが気になるものに積極的に手を伸ばす。各自自由に動いているようであるが他児のやっていることを意識して動き、次第に同じことをし始めていた。
- ・2歳児は講師の発言した色を集めることができたが0・1歳児は色には気にせずボールをかごの中に入れることを楽しんでた
- ・カラーカードが出ると2歳児はカードの上に同色のボールを乗せ0・1歳児も同色ではないが乗せていた
- ・曲がかかると室内をグルグルと動き出す子がおり、その子が動き出すことで他児も動き出し、曲に合わせてジャンプをしたり、その場でぐるりとターンすることもあった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

(探究内容について、特に注意・意識して観察したポイントや気づき)

- ・子どもたちが肌の色の違う講師を受け入れられるか、英語を受け入れられるか。小さい頃から異文化に触れることで自分たちとは違う人たちを自然に受け入れられる人になったほしいという願いから、保育士自らが親しみをもって積極的に関わるように接し発語した。
- ・最初は異国の人に違和感を覚え近づこうとしない子どもたちも、回数を重ねることで自然に接することができるようになった
- ・子どもたちの能動的な動きに保育士も講師も合わせて進めていった。英語を耳にすることで子どもの口から自然に英語が出るようになった。
- ・異年齢ながら一緒に楽しむ雰囲気をつくることで、前半室内にすることができなかつた子も後半になり興味を示し、子どもたち・講師・保育者とで輪ができるようになった。

(職員同士、保護者への振り返り・共有の方法)

- ・その日の活動をビデオに撮り保護者にも見てもらった。こまめな共有で保護者も意識してことばがけをする習慣がついた
- ・職員同士では、その日の子どもたちの興味関心の様子を見て感じたことを毎回の振り返りで共有した。次にどのような環境を作りことばがけをしていくことで子どもたちが集中しやすくなるのかを検討していった。

(次の活動・探究に向けた工夫、課題など)

- ・英会話スクールの訪問では、スクールの子どもたちと過ごす時間が短く、メインが曲を流してダンスをすることだったので触れ合うことがほぼなく、どのような活動を設定すれば触れ合いが生まれるのか工夫しなければならないことを感じた。
- ・映像を流すと映像を観ることに夢中になり、体の表現ことばの表現が乏しくなるので、定期的に行い回数を重ねることで見入ることから自由表現につながるようにしていき、英語だけでなく他にもことばがあることを知って欲しい。
- ・日常的に英語を浴びる活動は定着してきた。ここから、曲を聴いて楽しく動き回る段階へ移行し曲のことばにも興味を示し、更に他国のことばへの理解が深まるようにしていきたい。

